

2023年3月19日  
宮崎中部教会主日礼拝  
牧師 乾元美

詩編 51 : 12~14

ヨハネによる福音書 14 : 15~17

「共にいてくださる」

(ハイデルベルク信仰問答 問 53) ※問答は「日々の祈り」をご覧ください。

【前奏】

【招詞】 詩編 96 : 1~3

【祈祷】

【聖書】 詩編 51 : 12~14、ヨハネによる福音書 14 : 15~17

【説教】 「共にいてくださる」

<三位一体の神>

『ハイデルベルク信仰問答』の問答を基に、聖書の御言葉を聞いています。

今日から、問答は「使徒信条」の中の、第三の聖霊の項目に入ります。「我は聖霊を信ず」。教会は、父なる神、子なる神、聖霊なる神の、三位一体なる神を信じ、告白しています。

早速ですが、ハイデルベルクの間 53 の問答を見てみましょう。

「問 53 『聖霊』について、あなたは何を信じていますか。」

「答 第一に、この方が御父や御子と同様に永遠の神であられる、ということ。」

まず、聖霊について信じていることは、第一に、聖霊なる神さまが、御父や、御子イエス・キリストと同様に、永遠の神であられる、ということです。父と、子と、同格の聖霊です。

わたしたちは、「霊」と聞くと、何か実態がないような、曖昧なイメージを持つかも知れません。それで、聖霊だけはどうもよく分からない、という声をよく聞きます。

創造主なる全能の父なる神さまがおられることは、信じられる。まことの人となって、この地上を歩まれた神の御子イエスさまのことも、そういう方が確かにおられたのだ、と信じられる。でも、聖霊なる神さまだけは、どうもピンとこない…。皆さんは、どうでしょうか。

聖霊なる神さまについては、実は教会の歴史の中でも、どのように位置づけて、どのような存在として受け止めるべきか、多くの議論が重ねられました。

しかし、やはり聖書の御言葉に基づくなら、聖霊なる神さまは、父なる神さま、子なる神さまと共に礼拝され、崇められるお方として存在し、永遠の神であられる。そう告白せざるを得ない、という結論に、教会は達したのです。

この三位一体の信仰、聖霊を、父と子と共に神として礼拝する信仰は、キリスト教の信仰の要であり、揺るがすことが出来ないものです。

反対に、三位一体を告白しないなら、それはキリスト教であるとは言えないのです。

聖書の中には、イエスさまが「父と子と聖霊の名によって洗礼を授け」なさい(マタイ 28:19)、とお命じになる場面があります。パウロの手紙にも「主イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の交わりが、あなたがた一同と共にあるように」(二コリ 13:13)と、三位一体の神さまのお名前によって、祝福を語る場面があります。

また、今日読まれたヨハネによる福音書 14:15 以下には、イエスさまが、御自分が十字架の死から復活し、天に上げられた後、父なる神さまにお願いをして、「別の弁護者を遣わして、永遠にあなたがたと一緒にいるようにして下さる」ようにする、と弟子たちに約束なさったことが語られていました。

「弁護者」というのは、「慰め主」とか、「助け手」と訳されることもあります。また、「パラクレトス」、側にいる、傍らに立つ、という意味から出来た言葉です。

「弁護者」という言い方は、聖書の中で、子なる神イエスさまを指して使われることもあります。しかし、ここでイエスさまご自身、はっきりと、「父は別の弁護者を遣わして、永遠にあなたがたと一緒にいるようにして下さる」、と言われました。別の弁護者、御自分とは別の、永遠なるお方が、弟子たちに遣わされる、とお語りになったのです。

イエスさまは、わたしたちのために、十字架に架かって死に、罪の贖いを成し遂げられた後、復活し、その栄光の体をもって、天に上られます。そして、地上において、その復活のお姿は、見る事が出来なくなるのです。

しかしその後、ペンテコステの出来事が起こり、弟子たちに聖霊が降りました。イエスさまが天に上げられたゆえに、約束された聖霊なる神さまが、地上に降ってこられたのです。

そして、聖霊を受けた弟子たちは、神さまの御言葉、イエスさまの救いの出来事を人々に告げ知らせるようになりました。そしてそこに、イエスさまを信じる者たちが集められ、教会が誕生したのです。

教会は、聖霊のお働きによって誕生しました。

そうして聖霊なる神さまは、地上を歩む、イエスさまに救われた者の群れである教会と、いつも共にあって働いて下さいます。

わたしたちが、神さまの御言葉を聞き、イエスさまの救いを信じて、その恵みに与るために、働いて下さる。天におられるイエスさまと、地上を歩むわたしたちを繋いで下さり、信仰の歩みを導き、支え、守って下さる。そして、やがて来る終わりの日には、イエスさまの復活に、わたしたちをも与らせて下さるのです。

聖霊なる神さまは、そのように、地上にあるわたしたちと共にいて、父なる神さまと、子なる神さまと共に、わたしたちの救いのために働いて下さるお方なのです。

<風のように自由に>

さて、この聖霊なる神さまのお働きは、とても自由で、また豊かです。

イエスさまは聖霊のことをお語りになる時、「風は思いのままに吹く。あなたはその音を聞いても、それがどこから来て、どこへ行くかを知らない」(ヨハネ 3:8)とされました。

聖霊を風にたとえられたのです。実は、聖書のギリシア語において、「霊」という言葉と「風」という言葉は、同じ「プネウマ」という単語です。

わたしたちは、風を見ることが出来ません。しかし、風が吹いたなら、草木が揺れたりすることで、風の存在とその動きを、確かに知ることが出来ます。

聖霊なる神さまもまた、風のように、目には見えないお方です。しかし、風のように、自由に働かれるお方ですから、見えなくても、聖霊なる神さまが働いて下さった時に、わたしたちはその存在を確かに知ることが出来るのです。

ところで、キリスト教の中には、わたしたちが何か劇的な体験、神秘的な体験をすることや、神憑り的な感じになることや、あるいは異言、不思議な言葉を語ることによって、聖霊のお働きを受けていると証明できるのだ、と考える人たちがいます。

確かに、そのような体験をすることもあるのかも知れません。

しかし、そのような神秘的な、不思議な体験がなければ、異言を語れなければ、聖霊のお働きがない、ということではありません。そういう、わたしたちの特殊な体験や状態が、聖霊なる神さまの存在を示し、決定づけるのではないのです。

何より大切なのは、聖霊なる神さまは、わたしたちが御子イエスさまの十字架と復活の救いの恵みに与るためにこそ、働いて下さる、ということです。

わたしたちにイエスさまを指し示し、イエスさまの救いを知らせ、わたしたちをイエスさまと結び付けるためにこそ、聖霊は働いて下さいます。わたしたちが、イエスさまとの交わりに生きるためにこそ、聖霊なる神さまは、共にいて、働いて下さいます。

ですから、何か劇的な、神秘的なことがあったとしても。驚くようなことがあったとしても。それが、イエスさまの救いの恵みを指し示すものでないなら、イエスさまと結びついていないなら、それは聖霊のお働きではないかも知れません。

そのことを、わたしたちは慎重に見極めなければならないのです。

でも反対に、どんなに些細なことであっても。例えば、ある人が、教会の礼拝になんとか足が向くこと。日常の中で、聖書の御言葉をふと心に思い起こすこと。ちょっと祈ってみようと思うこと。これも、イエスさまへと導くための、聖霊の力強いお働きなのです。

そして、主の日には礼拝に集い、聖書の神さまの御言葉に耳を傾けること。罪を悔い改めて、イエスさまの十字架の罪の赦しに与り、洗礼を受けること。聖餐の食卓にあずかって、イエスさまの恵みに生かされ、信仰が励まされること。神さまを賛美すること。神さまを「父よ」と呼んでお祈りをする。ここに、イエスさまを信じる者たちがいること。

これこそ、本当は驚くべき、奇跡のような出来事であり、ここにこそ、聖霊なる神さまの風が吹いているのです。

わたしたちがイエスさまの救いの恵みに生きるようになる。神さまと共に生きるようになる。そのすべてのことが、聖霊なる神さまが、まさにそこにおられ、自由に、豊かに働いて下さっているという、確かな証拠です。

わたしたちは、今、ここで礼拝をしています。父なる神さま、子なるイエスさま、聖霊なる神さまを、礼拝し、賛美し、イエスさまの救いの御言葉を聞いています。

それは、草木が揺れて、風が存在がわかるように、まさに今この時、聖霊なる神さまがわたしたちと共にいて、働かれていることがわかる、その確かな瞬間なのです。

#### <聖霊のお働き>

ですから、ハイデルベルクの間 50 の、聖霊について信じていることの、答えの第二のところには、こう書かれています。「第二に、この方はわたしに与えられたお方でもあり、まことの信仰によって、キリストとそのすべての恵みにわたしをあずからせ、わたしを慰め、永遠にわたしと共にいてくださる、ということです。」

ここには聖霊が、「まことの信仰によって、キリストと、そのすべての恵みにわたしをあずからせ」て下さる、とあります。

聖霊は、まことの信仰を。つまり、救いの確信と、神さまへの心からの信頼とを、わたしたちに与え、わたしたちをキリストご自身に与らせて下さいます。キリストとわたしたちを、一つに結び付けて下さるのです。

そして、そのキリストのすべての恵みに。イエスさまが成し遂げて下さった罪の赦しも、わたしたちの復活の約束も、神さまと共に生きる永遠の命も、イエスさまとの交わりに生きる喜びも、兄弟姉妹との豊かな交わりも。そのすべての恵みに、わたしをあずからせて下さる。このすべての恵みを、わたしのものとして下さる。それが、聖霊のお働きなのです。

そうして、わたしたちの信仰を、導き、励まし、支え、守って下さる。だから聖霊は、「わたしの傍らに立つ方」、弁護者と呼ばれ、慰め主と呼ばれ、助け主、と呼ばれるのです。

#### <わたしにも与えられたお方>

さて、先ほど聖霊なる神さまは、ペンテコステの出来事によって、信じる者たちの群れ、教会に降り、救いのためにお働きになる、と話しましたが、同時にまた、わたしたち一人一人にも与えられ、それぞれに応じて、具体的に働きかけて下さるお方です。

問 53 の答えには、「第一に、聖霊が御父や御子と同様に永遠の神であられる」と言った後、「第二に、この方はわたしに与えられたお方でもある」とありました。「わたしに与えられたお方でもある」。

聖霊なる神さまは、永遠のまことの神であられます。そうでありながら、わたしたち一人一人の内にも、与えられる神、宿って下さる神であられるのです。

そうであるならば、聖霊は、側にいて下さるどころか、わたし自身の中に与えられている。

わたしに宿って下さっている。そんな、わたしたちにとって、最も近くにあるお方です。

伝道者であったパウロは、コリントの教会の人に、こう語りました。

「知らないのですか。あなたがたの体は、神からいただいた聖霊が宿ってくださる神殿であり、あなたがたはもはや自分自身のものではないのです。」（一コリ 6：19）

わたしたち自身、というものは、本来、罪に捕らわれていて、神さまに背き、自己中心的で、弱く、疑い深く、自ら滅びに向かっていくようなものでした。

しかし、この罪人であるわたしたちのために、神の御子イエスさまが、御自分の十字架の死によって、わたしたちのための罪の贖いを成し遂げて下さったのです。

ところが、このイエスさまの十字架と復活の出来事を、「わたしの救い」として信じ、受け入れることさえ、頑なで、疑い深いわたしたちにとっては、非常に困難なことでした。

差し出された恵みを、ただ受け取ることでさえ、わたしたちには難しいのです。

しかし、そのようなわたしたちに、聖霊なる神さまが遣わされ、働きかけて下さいます。そして、わたしたちは救いの御言葉を聞き、イエスさまを信じる信仰へと導かれ、洗礼を受け、聖霊の賜物、つまり、聖霊によって豊かな恵みを与えられるのです。

聖霊は、わたしたちを新しく生まれさせます。イエスさまの十字架の死に与らせ、罪に死んだ者とする。そして、イエスさまの復活の命に与らせ、新しく生まれた者とする。

聖霊は、わたしたちを新しくして下さる霊です。わたしたちは聖霊によって、もはや自分を、自分自身のものとしてではなく、神さまのものとして歩むようになるのです。

「知らないのですか。あなたがたの体は、神からいただいた聖霊が宿ってくださる神殿であり、あなたがたはもはや自分自身のものではないのです。」

わたしたちがイエスさまにいただいた新しい命を生き、この地上を信仰によって歩み、そして終わりの日にまで至るために。聖霊なる神さまは、わたしの内に宿って下さり、わたしがイエスさまと結ばれた者として、ふさわしく歩むことが出来るよう、働き、助け、導いて下さるのです。

このように、イエスさまに結ばれた者として、救いの恵みをたくさん受け、日々の生活や人生に、信仰者としての豊かな実りが与えられていく歩みのことを、「聖化」と言います。

この毎日の生活で。この地上の営みの中で。今与えられている場所や、人間関係や、この生きている体をもって。イエスさまと共にある恵みを生きる。御言葉に生かされ、祈り、賛美して生きる。ますますイエスさまを愛し、ますますイエスさまを慕い、ますますイエスさまを喜ぶようになる。ここに、聖霊なる神さまの豊かなお働きがあるのです。

聖霊なる神さまは、わたしたち一人一人に与えられ、宿って下さり、それぞれにふさわしい仕方で、働きかけて下さいます。それが、ハイデルベルクが、「この方は『わたしに』与えられたお方でもある」と、単数形で「わたし」を強調していることから分かります。

ある人は、この聖霊の恵みは、「大皿にのってドーンとふるまわれる料理ではなく、わたしたち一人一人の状態に合わせて調理されて運ばれてくる特別食のようなもの」である、と表現していました。

一人一人と、このわたしと共にあり、このわたしに、宿ってくださり、このわたしに必要な仕方で、助け、導きイエスさまの恵みにしっかり結び付けて下さる。イエスさまへと、わたしの毎日の生活を、わたしの日々の行いを、わたしの心の思いを、向けさせて下さる。

わたしたちは、この地上にしながら。また罪人のような歩みを続けてしまうものでありながら。しかし、聖霊が与えられることによって、確かに神さまの力に支配され、日々新しくされ、恵みを受けて、豊かな実りを与えられていくのです。

わたしたちは、ますます、イエスさまと親しく交わり、ますます神さまを愛し、ますます隣人を自分のように愛する者へと、聖霊によって、変えられていきます。

そして、このお方は、わたしが地上を歩んでいる間も、イエスさまが再び来られる日も、そして復活に与って永遠に至るその時も、わたしたちと共にいて下さいます。

だから、ハイデルベルクは、この方は「わたしを慰め、永遠にわたしと共にいてくださる」方である。聖霊なる神さまは、わたしの慰めである。そう、語っているのです。

#### 【お祈り】

天の父なる神さま 御名をあげます。慰め主である、弁護者である、助け手である聖霊を、わたしたちに遣わして下さい、わたしたち一人一人に与えて下さいますこと、永遠に共にいて下さいますことを、心から感謝いたします。

聖霊は、わたしたちを、天におられる救い主イエスさまと深く結びつけ、十字架と復活の恵みに与らせ、わたしたちを罪人から神の子へ、死んだ者から生きる者へと、新しくして下さいます。

また、イエスさまに救われた者の群れである、教会の歩みを、支え、守り、終わりの日まで導いて下さいます。

聖霊なる神さまが、どうか、いつもわたしたちに豊かに働いて下さり、イエスさまを信じる信仰をますます強め、信仰の豊かな実りを与えて下さいますように。

そして、わたしたちといつも、永遠に共にあって、慰めて下さいますように。

このお祈りをイエスさまの御名によってお祈りいたします。アーメン

【讚美歌】 352 「来たれ全能の主」

【信仰告白】 使徒信条

【献金】

【主の祈り】

【讚美歌】 28 「天のみ民も」

【祝福】 主があなたを祝福し、あなたを守られるように。

主が御顔を向けてあなたを照らし あなたに恵みを与えられるように。

主が御顔をあなたに向けて あなたに平安を賜るように。

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、

あなたがた一同と共にあるように。アーメン